

あかしびと

101号 2020年7月発行

日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 〒2360046 横浜市金沢区釜利谷西3-36-20

牧師 森島牧人・森島 恵 電話 045-783-5475

mail:church.kanazawabunko@gmail.com

[http:// kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp](http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp)

「明日のことまで思い煩うな」 マタイ 6:19-34

森島 牧人 牧師



私たちの思い煩い・
悩みには、大きく分け
ると、二種類のもの
があると思います。一つ
は「過ぎ越し苦勞」で
す。「もっと優しい言
葉をかけておけばよか

った」、「どうしてあの時に決断しなかったの
だろう」などと、すでに過ぎてしまった過去が
気になり、そこに心が捕らわれてしまうので
す。後悔と自責の念が消えなくて、しかし現状
を受け入れることもできず、悩みながら過
ぎしている人もいます。

もう一つは「取り越し苦勞」です。「新しい
職場でやっていけるだろうか」、「人間関係は
大丈夫だろうか」、「この会社は大丈夫か」、
「リストラなどのリスクは無いかな」等々。こ
う考え始めるとキリがありませんが、明日ど
うなるのかを知ることができないために、私
たちは必要以上に思い煩い、悩むのです。

でもよく考えれば、これらはいずれも＜過去＞
や＜未来＞のことです。決して＜現在＞の
ことではありません。つまり、そこに目を留
めることができるなら、＜幸いに生きる＞た
めのヒ

ントが、きっと見つかると思います。まず、
耳を澄ませて、神のみ声を聞いてみてくだ
さい。

さて、＜煩う＞という意味では、その中
でも多いのが富に関するのではないでしょ
うか。このことは、いつも私たちを魅惑し、
人間の心に、いかにも安定と安心感を与
えるように見せかけ、私たちにすり寄っ
てきます。しかし、これこそまさに、私
たちの煩いのもとであります。「あなた
の富のあるところに、あなたの心もある
のだ。」（マタイ6:21）と聖書にもあ
ります。たしかに私たちの思い煩いが富
をもたらし、またこの富がさらに思い煩
いをもたらすからです。私たちは、自
分の生活を富によって安定させようと
し、その思い煩いによって思い煩い
をなくそうとしますが、実際は、その
反対の結果に陥るようなことばかりを
しているのではと、思います。

富を、誤って用いてしまうことがどう
して生じるかといえば、それは、私
たちが富を「明日」の安定のために
用いようとするからです。つまり、
思い煩いは、常に明日に向けられ
ているからです。しかし富は、厳密
な意味においては、ただ「今日」と
いう日（カイロス）のためにだけ、
与えられているものなのです。で

すから、明日の安定を計ろうとする私たちの期待感が、私たちの今日（クロノス）を、こんなにも不安定にするのです。

「一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」と聖書は語ります。明日を全く神の手に委ね、今日生きるために必要なものを受け取る者だけが、真実の安定を得ることができるからです。毎日、その日（カイロス）に与えられるものを受け取る者こそが、自分を「明日」という日（クロノス）から自由に出来るからです。なぜなら、明日のことを思うことが、私たちを、果てしない思い煩いに巻きこんでいるからです。

そもそも神は、私たちに、み子とともにすべてのものを与えて下さるはずではなかったのか。ですから、「明日のことを思いわずらうな」とのこの言葉は、生活の「知恵」や、「律法」、また「戒め」として理解されるべきではないのです。これは、ただ、イエス・キリストに関する「福音」としてだけ理解されるべきなのです。つまり主イエスを「知って」・「服従

する」者だけが、この言葉から、主イエス・キリストの父の「愛の約束」と、すべてのものからの「自由」とを受け取ることが出来るからです。今や主の弟子には、もはや思い煩うことはないということを知るので。なぜならば、私たちは次の日、次の時（クロノス）のことを、思い煩う必要は全くないからです。なぜなら、神はこの世を支配しているからです。ですから、私たちは、思い煩うことが不可能であるからこそ、思い煩うべきではないのです。つまり私たちは、思い煩わないことによって、神の支配を自分のものとすべきなのです。

誰もが初めて通る＜人生の道＞です。でも、その道を私たちは、たった一人で歩むのではありません。＜あなたにとって一番良い道をわたしは知っています＞と、そう教えてくださる方が、いつもあなたと共におられるのです。「だから、明日のことまで思い悩むな。」と、そう語ってくださる神が、あなたの守り手として共にいてくださるのです。あなたのために、＜幸いな明日＞を守られる神の平安が、共にありますように。

目次

「明日のことで思い煩うな」	森島 牧人(牧師)	p. 1
乳がんになって	高井 幾世	p. 3
人生教訓…三浦綾子さんから学ぶ	根岸千恵子	p. 4
喜びの一日	西山 律子	p. 5
創世記を読み返して	白根 義輝	p. 5
子育てに思うこと③ 横浜編	浅輪 一郎	p. 7
コロナ禍に思う、失って分かったよ	白井 豊子	p. 9
地の塩、世の光	梅谷 興三	p.10
「主イエスのもとに行こう」6月21日説教	森島 恵(牧師)	p.12
	説教要約：羽入田悦子	
試練の波・希望の出口	犬塚 志朗	p.14
	その他	p.15～

乳がんになって 高井 幾世

昨年の暮れに乳がんが見つかりうろたえるばかりの私でしたが、主に守られ多くの方々に助けられ、無事治療を受けることができました。神様は怯える私の手を取り、その場で支え導いてくださったことを心から感謝いたします。

ちょうど昨年のクリスマス礼拝の前日、夫との会話で婦人科検診の話になり、急に気になってチェックしたところ右胸にしこりがあることに気づきました。ほんの数分前までは全く想像だにしていなかったことです。不安に襲われ頭が真っ白になりましたが、翌日教会で西山姉と根岸姉からアドバイスと励ましをいただきようやく心が落ち着きました。その夜神様に導かれるように、同じ病気になられた職場の先輩に電話をしました。幸いにも彼女から詳しい話を伺うことができ、病院も紹介していただきました。次の日にその病院で診察を受け、超音波検査の結果、ほぼ乳がん間違いなさだろと言われました。早期ではあるものの手術はしなければならないとのことで、先生はその場で年内ぎりぎりに県立がんセンターの予約を入れてくださいました。涙目になりながらも、優しく丁寧に説明して下さる先生の言葉にうなずきつつ、早い段階で病気が見つかり年末年始の慌ただしい中最短で治療の道筋をたてていただけたことを感謝せねばと思いました。

そして昨年最後の礼拝の後、白井姉に以前勧めていただいた酵素玄米のことをお聞きしました。白井姉は玄米食のことだけではなく、がんに関する本や治療法についても教えてくださり、それらによって身体が備えられました。また、はじめての手術に怯える私にお手紙やメッセージを書いてくださり、力づ

けてくださいました。その後、精密検査もスムーズに進み、入院も2月半ば過ぎに決まりました。羽入田ご夫妻や白根兄をはじめ教会の皆さんにはたくさんのお祈りと励ましをいただき、恵牧師には「執刀してくださる先生とともにイエス様がいてくださいますように」と祈っていただきました。手術日当日は信頼する主治医の先生や優しい看護師さんに囲まれ、私より1歳年上とおっしゃった麻酔科の先生と64年の東京オリンピックの話をして意識がなくなり、気づいたときは手術は終わっていました。リンパへの転移もなく、5日で退院できました。また手術前のCT検査で卵巣腫瘍の疑いがあると言われ心配していましたが、術後しばらくしてMRIを受け子宮筋腫であることがわかりました。神様は臆病者の私を憐み守ってくださいました。コロナ感染防止のため1か月延期になった放射線治療も、夫が毎日車で送ってくれ無事受けることができました。

今回乳がんになって一つ一つのことを振り返るとき、神様は見えない御手をもって導いてくださり、多くの方たちに支えられたことを感謝せずにはおれません。緑内障もあり視力の衰えを心配するものですが、試練や苦しみのときも主がともにあって助けてくださることを信じ、これからも主にある希望に生きていきたいと思えます。

「神はわれらの避け所、また力。苦しむときそこにある助け」(詩編46・1)



人生教訓 …… 三浦綾子さんから学ぶ 根岸千恵子

喜びよりも苦しみの多いのが人生かもしれない

その苦しみに合うたびに 絶望しては生きていくことができない

日常生活の中で 他人の表情やそぶりを 自分の先入観や偏見で 意外な誤解をして暮らしているかもしれない

とにかく人間が誤りやすいものであることを自覚すること それは人生にとって非常に大切である

苦難によって人間は鍛えられる。苦難の中でこそ人は豊かになれる

その苦難を感謝し 他者の苦難を思いやる者でありたい。心のしこりを融かすものは 寛容であり 愛であり 共に荷を負ってくれる忍耐である

人間はどれほど他者を許したかで その人間の価値がわかるともいわれている

自分の罪がわかった時 大きな平安と 神が見えてくる。私たちは自分では心優しいつもりでも 意外に他人の心を傷つけて生きているものだ

立派なひとほど 他人を誹らない。寛容なのだ。秀すぐれた人間というのは他の人が愚かには見えぬ人間のことだろう

人が愚かに見え 欠点が多く見えるうちは自分がたいして立派ではないということなのだろう

人間には考えられない不思議なことも予想して 自然は造られているのに 核廃棄物のような洗いようにも消しようにもない毒素を造って 地上のすべてのものを冒している そんなことを考えると 人間の愚かしさに腹が立つ

三浦綾子さんの言葉より抜粋

(13年間闘病生活を送り、その間キリスト教の洗礼を受け、77歳で逝去)

私は仰せを心に修めて、あなたに対して 過ちを犯すことのないように全てを委ねて 御旨のままに従うものでありますようにと 祈りながら 罪多き日々を過ごしているのです。主より他に依りたもうものはなく、見捨てないでください と 願うのです。



喜びの一日

疲れて帰宅した夫と私の目の前に、温かい茶碗蒸しとお茶が「どうぞ」と笑顔と一緒に出てきました。3か月ぶりにわが家に来た息子と孫が、一生けんめい作ったものです。世界一美味しい、嬉しいものでした。

そして「大きくなったら電車の運転手さんになりたいな」という1年生の孫は、おもちゃの電車や新幹線を走らせて、私たちを旅に連れて行ってくれました。金沢文庫から横浜、新横浜から京都へ、運転しながらアナウンスする孫も嬉しそうです。景色を想像しながら私たちも楽しい旅気分を味わいました。

主がくださった喜びの一日でした。

夫が1年半前に脳出血で入院し、高次脳機能障害という軽い後遺症がありますが、日常生活はもと通りとなりました。今日まで守られ全てのことを益としてくださる主に感謝です。

西山 律子

今の思いを讃美歌 21-8 番の讃美で表したいと思います。

♪ いくつしみ深き み手に委ねん、
この身も心も、日々の糧も、
共に生きる 愛する者も、
与えられしもの、そのすべてを。
♪ 恵みのみちびき 豊かなれば、
わがなすすべては 祝福うけ、
喜びもて いそしむわれは
心より歌わん、「よき主よ、アーメン」。



「創世記を読み返して」

どなたがおっしゃっていたのか覚えていませんが、イスラエルを旅行すると、聖書がよりよく分かれるとお聞きしたことがあります。

そこで、いつかはイスラエルに行き、ガリラヤ地方やエルサレムを訪れたい、イエス様の足跡を少しでも味わってみたいと思っていました。その前にもう一度聖書を通読する必要があると考えました。元来が怠け者ですので、なかなか読み始める踏ん切りがつかず、手付かずの状態でした。コロナの影響で外出を控え、自

白根 義輝

宅にいる時間が増えたので、いいチャンスと思い読み始めました。コロナ終息後もちゃんと続くか、今からとても心配です。

以前、まだ働いていた時は、一日5章と決めて読んでいました。今回は短めで一日2章と決めました。5章の中に長い章がいくつかあると義務的になり、深く意味を考えたり味わったりすることなく、ただただ一日のノルマをこなせばいいと、読み急ぐようになってしまったからです。

時間をかけてゆっくり読むと、今まで見えなかった発見や疑問が出現しますが、今更、聞くに聞けないような内容が殆どです。何とか、この世の旅路を終える前に解消させたいと願いながら読んでいます。

私は、ずっと映画やドラマの主人公は、美男子や美女ばかりだなと思っていました。これは、幼い頃から刷り込まれてきた情報の影響だと考えていましたが、神様も美男美女がお好みではないのかと思うようになりました。以下にその理由を挙げてみます。

神様から特別に祝福された、アブラハム・イサク・ヤコブ（イスラエル）の奥さんたちは、全員美人でした。

・アブラム（アブラハム）の妻サライ（サラ）

気が弱く小心者で身勝手なアブラムは、保身のために妻サライを妹だと2回も偽りました。

エジプト人が大変美しいサライを見た時、夫である自分が殺されかねないので、わたしの妹だと言ってほしいと頼んだ。その結果、サライはファラオ王に召し入れられた。（12：11-13）

アブラハムがネゲブ地方へ移った時、再びサラを妹だと偽ったので、サラはアビメレク王に召し入れられた。（20：1-2）

神様がアブラハムにサラを祝福し諸国民の母とする、と告げられた時、アブラハムはひれ伏しましたが、笑ってひそかに言いました。「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか」（17：17）

態度と腹の内が全く違う、不信仰の極みだと思います。人のことを言えた義理ではありませんが。

しかし、アブラハムは、9回裏、逆転満塁ホームランを打ったのです。モリヤで山に登り、老人になってから与えられたイサクを、焼き尽くす献げ物としてささげなさいと神様に命じられたアブラハムは素直に従いました。

そして、イサクを刃物で殺そうとした時、御使いの「その子に手を下すな」との声を聞き信仰が認められました。（22：1-13）

・イサクの妻リベカ

リベカはアブラハムの兄弟ナホルとその妻ミルカの息子ベトエルの娘で、際立って美しく、男を知らない処女であった。（24：15-16）

飢饉があった時、イサクはゲラル地方に移り住んだ。神様はイサクを祝福し、土地を与えるというイサクの父アブラハムとの契約を成就すると言われました。それにも関わらず、その土地の人たちに妻リベカのことを尋ねられると、お父さんと同じように妻リベカをわたしの妹ですと言ってしまったのです。似たもの親子だと同時に、きれいな奥さんをもらうと苦労が多いと思いました。私の場合は？それ以上のコメントは差し控えます。

そのリベカは、長男であるエサウが受けるイサクからの祝福を、イサクを騙して弟ヤコブが祝福されるように画策したのです。

エサウの復讐を恐れたヤコブは、リベカの兄、ラバン伯父さんの所へと旅立ったのです。

・ヤコブの妻レアとラケル

ラバンには、レアとラケルという二人の娘がおり、姉のレアは優しい目をしていたが、妹ラケルは顔も美しく、容姿も優れていた。29：16-17

伯父のラバンもリベカ同様悪知恵が働き、ヤコブはレアとラケルのために14年間、6年はラバンの家畜の群れのため20年間働きました。そして、主がヤコブに、「あなたは、あなたの故郷である先祖の土地に帰りなさい。わたしはあなたと共にいる。」と言われたので、ラバンの下から旅立ちました。旅の途中で、神様から、「あなたの名はヤコブである。しかし、あなたの名はもはやヤコブと呼ばれない。イスラエルがあなたの名となる。」と名付けられました。(35:10)

その後、ヨセフの物語へと続きます。ヨセフが見た夢を言わなくてもいいのに10人の兄たちに語り、「夢見るお方」として憎まれました。そして、商人に売られエジプトに連れて行かれました。ヨセフを買い取ったのは、ファラオの宮廷の役人でした。主人から信頼されたヨセフは家や財産の管理をすべて任せられました。ヨセフは、顔も美しく体つきも優れていた(39:6)ので、主人の奥方に言い寄りましたが全く受け付けませんでした。とう

とうイケメンのもて男ヨセフは、奥方に嘘をつかれて牢獄に入れられてしまいました。

創世記だけでもたくさんの人物が登場します。しかしながら、長所よりもより短所が目立ちます。だから、私は、安心できます。神様は、不完全な人間を、忍耐強く、愛と責任をもって導いてくださることがよく分かるからです。

ヨセフは、何と私の人生は不幸の連続なんだろうと思ったかも知れません。しかし、エジプトのみならず、当時の世界を飢餓から救済する立役者となりました。禍を転じて福と為すや塞翁が馬などとは、スケールが全く違います。

ヨセフが自分を裏切った兄たちと和解する時の言葉が心に沁みます。

「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」

全ては神様の御心であり、恵の下にわたしたちもいることが確信できるからです。



カナンの地

育児を通して思うこと ③ 横浜編 浅輪一郎

「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」(マルコによる福音書10:42-43)

ゼベダイの子ヤコブとヨハネは、栄光を受ける際、一人をイエスの右に、もう一人を左に座らせて欲しいとイエスにお願いをしました。そして、それを聞いた他の十人の弟子もヤコブとヨハネのことで腹を立て始めました。上記の引用は、そのことに対してイエス様が仰ったことです。私は前号の「あかしびと」で、勉強が出来るようになることによって子どもの成功を願う親も、コミュニケーション能力を高め経営者になることによって子どもの成功を願う親も、結局は、自らや自らの子どもの利益しか考えていないという点では同じではないかと述べました。その姿は、自分だけが主の栄光に授かることを目指すゼベダイの子ヤコブとヨハネ、そして、出し抜かれたと感じて彼らに腹を立てた他の十人の弟子と、さして変わらないのかもしれませんが。イエス様が仰った「偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」という言葉は、十二弟子にのみならず、自分もしくは自分の子どもが偉くなることしか考えられ

ない、現代の私たちにも語りかけられているのではないのでしょうか。

私は、日本バプテスト神学校に入学して以来、神学生の為に、信徒の為に、地域の方々の為に、全力で、しかも嬉々として仕えて下さる先生方を間近に見てきました。その姿は人を変える力を持っています。私もその働きと喜びの根拠になる方についての学びを深め、いずれは行って同じようにしたいと思わざるを得ないのです。

昨年、私が実習でお世話になった関東学院教会がある関東学院大学の正門には石碑があります。

そこには「人になれ 奉仕せよ」と力強く刻まれていて、偉くなることの真意を、改めて思い起こさせてくれるのです。(日本バプテスト神学校 2019 年度実習生)

あかしびと 99号、100号での「育児を通して思うこと」①ニューヨーク編 ②シアトル編 の続編です



*日本バプテスト神学校より実習生として
今年度は鈴木利子姉を迎えています

コロナ禍に思う 白井 豊子

コロナで世界が今のように変わるとは予想もつかないことであった。

「ステイホーム」と叫ばれ、外出をできる限り控えるようにとの事で、内向きの生活をしなければならなくなった。

私はコロナ以前は毎日のように、外出している日常であった。月、火曜日は二時間ずつの養護施設でのバイト。水曜は学びの会。木曜は書道のおけい古、金曜は学びの会、日曜は教会であった。しかし、コロナ禍で仕事はもちろん、学びや教会も中止となり、行く場がなくなった。毎月三～四日間行っていた安曇野にももちろん行けなくなった。

安曇野の友人は格別困った様子でもなかった。それは畑仕事をしたり、自然散策をしたり、親しい友人どうしの交流をしたりと、いつも通りに過ごしているとの事だった。

また一生を通しての仕事、信念をもって仕事をしてきた方たち…牧師さん、音楽や書の

先生方…も自らのテーマを追求して励んでおられた。

私はといえば、外から刺激をもらって日々過ごしていたからだろう、内側から湧き出るもので生きていないからかもしれない。だから何か気力がなく、休眠状態の三月、四月、五月を過ごした。

田舎と呼ばれる所ではコロナ患者はあまり出ない。自然（緑・水・空気）の美しい安曇野では一人も患者は出てないという。便利さを追求し、機械文明の象徴のような都会では、人が密集し、忙しく動き、緑の少ない中、空気も汚れており、コロナが発生しやすい。

文明の見直し、自然回帰、手作りのよさ、スローライフなど、コロナ禍を通して呼びかけられているのだろう。

「失ってわかったよ」 白井 豊子

古希を迎える時、自分のこれまでの人生をふり返る機会があった。

時を同じくして、ガンを患った友人二人に出会い、彼女らと話していく中で、自分がガンになった時の体験が思い起こされてきた。彼女たちにそれを語ろうとして時、ふと心に浮かんだのが次のようなことばである。

失ってみて初めて知ったよ

今まであたりまえにあったことが
いかに大切であったかを。

病を得て知ったよ

健康はなにものにも かがたく
すべての基になるものかと。

けがをして知ったよ

人の体は神の最高の作品であるかを。

恩人の死にあって知ったよ

いかに多くの恩恵をうけて

今の自分があるかを。

身近な人との別離を通して知ったよ

さびしさを抱えながらも

自分らしく生きねばならないかを。

災害や事故で一瞬にして失ったら

平穏な日常はいかに貴いかを知るだろう

失った人、物、時も、もう元には戻らない
「元に戻して」といかに叫んでも戻らない

人の体も失ったのを抱えながら認めながら
生きていくしかない。

「これまで無理させてきて、ごめんね。

有難う。これからは一層負担をかけるけど

よろしくね」

と、体にあいさつを送ろう。

離別や死別においても、もうその人は
戻らない。

体へのあいさつと同じように

ゆるしに向けて努め、感謝の念を抱き、
受けた恩恵を他の人に返していくことを
誓いたい。

様々な失いを通して

「本当に大切なのは何ですか」

と、問われていくのだ。

平穏に過ごさせていただく恵みに

感謝しながら生きていこう。

(2020年2月23日夜記す)



「地の塩」「世の光」

2020. 6. 26.

ー マタイによる福音書5章13-16 ー

梅谷 興三

新型コロナウイルス 緊急事態宣言（4月7日）をうけて 自宅にすることが多くなりました。教会でも手の消毒は勿論、礼拝の他は会合をとりやめました。礼拝自体も席をあけて座ることとなっています。

6月25日現在国内の感染者数（累計）は全国で約2万人、死者は約1000人になっています。6月にはいって、感染の発生が落ち着いてきたことと経済の低迷による企業等のこれ以上の赤字傾向からのぬけだすため緊急

宣言を解除するになりました。バランスが難しいところです。

経済的な支援は政府に任せるにしても、キリスト者としては何か貢献できることはないのでしょうか。これは聖書に親しんできたものの素朴な疑問です。とりあえずは 自分自身が感染対策をしっかりやることだと思えます。つまりマスクを忘れず、手を清潔にすることまた栄養や休息をとり、抵抗力を弱めないことが大切といわれています。通勤を余儀

なくされる方々、人との対応が必要な仕事の方々は大変だと感じます。観光業の経済にたいする寄与度をもとにもどすことは容易ではないと思はれます。

また新型コロナウイルスの状況からみると治療方法は隔離し、安静させるだけの対症療法がメインときいています。従ってことは簡単には終息しないように思います。有効な施策は新型コロナに対するワクチンの開発だそうです。それには莫大な費用がかかり、普通最低一年はかかると云われています。仮にできて、その有効性、副作用をしらべるのに時間がかかるからです。

赤字経営がほうぼうで発生、経済の沈滞から脱するため緊急事態宣言が解除されましたが、東京都を中心に感染者数は増加に転じています。

まだ必ずしも把握できていない新型コロナウイルスの実態を把握することが大事ですが、与えられた情報の整理でしょうか。それから、徐々に 個人的な対応だけでなく、みんなが関心を持ち、困っている人がおれば、耳を傾け、組織的に対応が出来れば素晴らしいと思います。これは容易なことではないでしょうが、すこしずつでも道はかならず開けてゆくに違いありません。

なお厚生労働省からの6月26日付けの新コロナに関する政府の方針Q&A(抜粋)をご参考に供します。

- 1 人と人との間隔；出来るだけ2m開ける(最低1m)
- 2 会話する際；可能な限り真正面を避ける。
- 3 外出時や屋内でも；間隔が十分とれないとき、症状がなくてもマスクをつける。
- 4 家に帰ったら まず手や顔を洗う。すぐに着替える。
- 5 手洗い；30秒程度かけて水と石鹸で丁寧に洗う。
- 6 その他
 - ・高齢者、持病のある方は体調管理を十分に。
 - ・感染経路の中心は飛沫感染と接触感染だが閉鎖空間での会話は感染を拡大するリスクがある。
 - ・出来るだけ(外との)換気をよくする。
 - ・無症状の人からの感染も指摘されており。油断は禁物
 - ・身の回りのものの消毒 除菌。
熱水、塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウムー使用方法 要注意ー)、アルコール消毒剤、住宅用 台所用洗剤(界面活性剤)など。



「主イエスのもとに行こう」

ローマの信徒への手紙5章：12-15節

マタイによる福音書10章26-33節

森島 恵 牧師

何かに恐れを抱くという経験は誰にでもあると思いますが、特に今年に入ってから新型コロナウイルスの禍は多くの恐れを人間にもたらしました。病のことはもちろん経済問題、教育問題、差別などの社会問題など多岐にわたって私たちを不安にしています。そのような中で今日与えられた聖書は、主イエスが「恐れるな」という言葉を三度繰り返されたところからです。人間は時代を超えて様々なものに恐れ慄きながら生きて来ました。「何も怖がらないで安心して生きて行きなさい」という御言葉に溢れた聖書は、そのような人間を恐れから解放する<信仰>というものを伝え続けて来ています。

さて「恐れるな」という主イエスの言葉は、今日の箇所少し前にある十二弟子の選びの後、彼らを派遣するに当たっての主の言葉の中に出て来ます。派遣されて行く弟子たちへの主の言葉は「・・・帯の中に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはならない。旅には袋も二枚の下着も、履物も杖も持って行ってはならない。」(マタイ10：9-10)、「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。…」(同10：16)など、迫害の予告もあって厳しい旅になることを示唆するものでした。今日の箇所はその続きで、「人々を恐れてはならない。覆われているもので現わされないものはなく、・・・。わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」(同10：26-28)というもの

です。伝道者のあるべき姿勢を教えるこの言葉は同時にキリスト者として生きる私たちの生き方を示すものでもあります。主イエスに教えられた言葉を心に刻み、恐れることなく日々出会う人々に福音を証しして行く。その時恐れるのは魂を殺すことの出来ない人間ではなく、体も魂も滅ぼすことの出来る<神のみを畏れよ>と主イエスはおっしゃっています。迫害の中にあってもいつも共にいてくださる神を敬い恐れつつ、祈りと共に伝道に励む時、私たちは人間を恐れることから解放されるのです。

また病の中で死を恐れるという場合もあります。そのような時何よりも大切なのは真の神に全幅の信頼を置いて従い行くという姿勢です。独り子を賜うほどに世を愛して下さった神、その神に自分も愛されているという確信を持って自身も神を愛して行く、その中で私たちは神によって支えられ、死を恐れることから自由にしていただけるのです。この<神に信頼を置く>について主は「・・・雀の一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。・・・だから、恐れるな。」と続けておられます。天地万物を創造しそのすべてを喜び保持し続べ治められる神、この神の愛と真実を知っておられたのは十字架の道を歩まれた主イエスお一人でした。その主が示された<私たちの父である神の愛>の中に生きるという信仰に立つ時、私たちは神の憐みによってすべての思い煩いや恐れから解放され、真の慰めをいただくことになるのです。「神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。」(ローマ5：15)というバ

ウロの言葉があります。主のもとに心一つにして進んで行きましょう。

(要約 羽入田悦子)

説教要約者 当日の感想

「独り子を賜うほどに世を愛された神。その神に自分も愛されているという確信を持って・・・」との先生のお言葉。思い出すたびに胸が熱くなります。

雀のお話のところで、ロバート・ブラウニングの詩の最後の一節「神、そらに知ろしめす。すべて世は事も無し。」を思いました。そしてとても幸せな気持ちになりました。神のみを畏れ敬い、何事があっても恐れることなく、出会う方々に福音を証しして行く者になりたいと強く願っています。お導き、ありがとうございました。(羽入田悦子)

説教要約について

説教要約に関しては一度もお願いしたことはありません。これまでこの方のように、説教を聞き取って感想を送ってくださる信徒の方は皆無でした。驚きの集中力と文章力のある方です！

そうしているうちに要約を書き送ってくださるようになり、週報の裏面に掲載しています。私にとっては、どのように聞き取られるか、語る言葉が届いているかなど反省することをたくさん教えられて、本当に感謝しています。(森島 恵)



4月から全面的に中止してきた教会のプログラムでしたが、6/7(日)第一主日より、2か月ぶりに、礼拝堂での礼拝を再開できました。やはり皆さんと礼拝堂に集まったの礼拝は、何にも代えがたい、喜びです。

次々と押し寄せる試練の波・希望の「出口」まで、神様のお導きを祈りながら 犬塚志朗

この数年間、田舎暮らしで私は豊かな大自然に囲まれ、まるで、昼も夜も天国で幻想の世界で居住しているような楽しい生活をしてきました。

ところが昨年秋より一変しました。横須

賀の自宅に戻って、台風15号、19号の強風雨で古木造の我が家が揺さぶられて震えあがり、そしてすぐ後、入院手術の予告、入院、全身麻酔で人工呼吸器・意識不明、目覚めたときは朦朧として腕に点滴針が刺され痛みを

こらえて床に臥せた生き地獄の生活をしました。(退院後の主治医がにこやかに説明することには「すべて順調に回復している」とのこと、でも信じられず…) やがて、新型コロナウイルスの世界襲撃のニュースが飛び込み、気が小さく、生温い緩慢な人生を過ごしてきた私には試練のときが始まりました。精神的に追い詰められ、少しの発熱にも怯え、息苦しさも感じました。しかも自粛、避三密、その影響下で経済的にも破綻しそうな暗い世界のニュースが飛び交い、次から次へと私の心は闇のスパイラルにハマってしまっ……。

年齢と経験を重ね心静かに過ごすべき後期高齢者としてはお恥ずかしいばかりです。神様に絶対の信頼をおいて生活していれば、何も不安に煽られることがなく平穏な日々を過ごすことができるのに…。

苦境に立たされた時こそ、人生に対する姿勢が問われています。苦しみや悲しみに押しつぶされそうなとき、神様が近くに寄り添い、希望の「出口」まで、必ず神様が導いてくださることを忘れずにいれば、心静かに、平穏な暮らしができるのに…その結果、免疫細胞(NK細胞)が活性化し、体調回復、悠々自適に過ごせるのに…。戦々恐々として暮らしているネクラの私には今回の新型コロナ流行はよい経験ともいえます。

自粛生活の中で世界の疫病感染と社会的変化について多くのことを学びました。世界的な疫病は定期的にやってくる。ウィルスは進化していること。100年前のスペイン風邪では、世界第一次大戦の死者数の4倍の人が感染で命を落としたこと。14世紀に発生した黒死病の流行でヨーロッパの全人口の30~60%が死亡。その後イタリアから西欧各国へとルネサンスが起こりました。定期的に生じる各疫病感染流行後にはいわゆるノーマル

スタンダードが大きく変化して生活環境が大きく変化してきたこと、等々。

今回の疫病で、日本の働き方改革が、混雑した通勤会社勤務からテレワーク・リモートワーク・在宅勤務へ、東京一極集中から地方への分散へ。在宅勤務の効率の良さ、会社の年功序列上下関係から実力主義へ、義理で参加する上司との飲みにケーションから、在宅で上司抜きオンライン飲み会へ。まったくの無収入になって破産しそうな業者と2倍にも3倍にも収入が増えている業者、等々、大きく変わろうとしています。

それにしても世界全体の平和を顧みないで自国の利益ばかりを追求するあまり、温暖化に拍車がかかり、豪雨、大洪水、土砂崩れ等々、環境悪化に加速が激しくなってきました。コロナウィルスは人間関係までも破壊し始め、コロナ離婚、コロナ疎開、偏った正義感や嫉妬心による私的な取り締まりや攻撃、コロナ自警団、自粛自警団、自粛ポリス、不安感による買い占め…。

神様の声が聞こえてきます
「人類よ、目を覚ませ!!」



ヴィヴィアン・Rリーチ作
「コロナウィルスより
人類への手紙」
皆様にネットでの検索を
お薦めします



新型コロナウイルス予防対策のため、4、5月中の教会堂での主日礼拝及び週間プログラムは中止しました。但し、**主日礼拝は、通常通り、ネット配信**で行いました。各自、自宅のPCで教会のホームページ「礼拝ページから」、ネット配信を通して主日礼拝を守りました。

4月12日のイースター、5月31日のペンテコステも**在宅オンラインで**礼拝を守りお祝いしました。

～教会堂での主日礼拝の再開～

金沢文庫キリスト教会では、国内外の「新型コロナウイルス感染拡大の猛威に大きな危機感を覚え、緊急の臨時役員会を開き、ウィルスへの予防対策として、4月より5月まで、教会堂での<主日礼拝>及び<週間プログラム>を全面中止する決定をまいりました。

しかし、今回の緊急事態宣言の解除をうけ、6月より日曜日での主日礼拝を再開することと致しました。但し、教会での週間プログラムは、しばらく中止と致します。

また、主日礼拝のネット配信は、今まで通りに致します。教会員の皆さまには、ご自宅のPCで、教会のホームページの「礼拝ページ」から、毎週の教会での礼拝（YouTube）をいつでも観ることが出来ます。

CS 教師就任式を経て、7月より教会学校が再開されました。初日はCS 生徒進級式、礼拝は生徒による司式、そしてCS 教師のメッセージ。コロナ禍で休校中の生徒は出席を控えていました。



